

天保度ノ米價調節

本庄榮治郎

一、序言。江戸時代ニオケル米價ノ變動及ヒコレニ對スル調節策、殊ニ江戸幕府ノ米價調節

ニ就テハ、サキニ法律學經濟學研究叢書ノ一冊トシテ多少コレヲ論述シ、從テ天保度ノ米價調節ニ就キテモンノ末章ニ於テソカ概要ヲ掲ケ置キタリ。近者國史叢書ノ一部トシテ發行セラレタル

『浮世ノ有様』ナル書ヲ讀ムニ、徳川季世ノ天變地異人事等ヲ説クコト詳ニシテ、稍々雜駁ニ失スルノ感ナキニアラスト雖、當時ノ世態ヲ知ルニ足ルモノ多ク、天保度ノ米價政策ニ就テモ之ニ論及セル所少カラス。思フニ享保文化ノ間ニオケル調節策ニ就テハ三貨圖彙草問伊助筆記等ノ詳細ナル記述ニ據ルヘク、堂島舊記、大日本貨幣史參考物價部等マタ大ニ參考スヘシト雖、天保年間殊ニソノ後半ニオケル事實ニツイテハ此等ノ諸書ニ附テ末タ多クヲ知ルヲ得サリシモノ、今『浮世ノ有様』ニヨリテ之ヲ補ヒ得ル處少カラサルヲ覺ユル也。乃チココニ天保度ノ米價調節ニツイテ聊カ之ヲ論述シ、拙著ニ對スル一ノ補稿トナサント欲ス。尤ソノ記述ノ方針ハ前著ト同シク、主トシテ大阪市場ヲ中心トシ適當ニ米價調節策トシテ考ヘキモノニツキ之ヲ説明スヘク、カノ米價調節ニ似テ非ナルモノ例ヘハ救濟策ニ屬スルカ如キモノヲ詳述スルハ本論ノ趣旨

ニ非ル也。

二、天保ノ米價。文化文政ノ間、時ニ米價ノ高騰シテ八十匁以上ニ及ヒシコトアリト雖、概シテ豐作ノ年多クシテ米價ハ五十匁ヨリ七十匁ノ間ヲ上下シ甚シキ亂高下ヲ見ルコトナカリキ。カノ文政十一年ニ九州方面四分ノ作柄ナリシ場合ニモ、十二月仕舞相場ハ前年ノ五十七匁五分(肥後米以下同)ニ對シ八十六匁ヲ示シ、翌十二年十二月ニハ七十二匁トナリシニ過キス。而モコノ八十六匁ナル米價ハ當時ニ於テ破天荒ノ最高價ナリシニ比スレハ天保年間ニオケル米價ノ變動ハソノ程度更ニ一層甚シキモノアリシコトヲ知ラサル可ラス。今天保年間ニオケル米價ノ狀態ヲ見ルニソノ高カリシハ四年秋ヨリ五年秋ニ至ル間ト、七年夏ヨリ十年夏ニ至ルマテノ間トノ二期間ナリ。故ニ米價ノ高低ヨリ見ルトキハ天保年間ハ之ヲ五期ニ別ツヘク、初年ヨリ四年秋ニ至ル第一期ノ間ハ諸國豐作ニシテ七八十匁臺ヲ前後シタルガ、四年六月以後各地風水害多カリシタメ米價ハ次第ニ騰貴シテ百十匁以上トナリ、翌年五月ニ及ンテ百四十五匁ニ昇リシト雖、同年豐作ナリシタメ漸次下降シ五年八月ニハ既ニ八十七匁五分ニ下レリ。即チコノ間ヲ以テ第二期ノ騰貴時代トス。然ルニ五年秋納良好ナリシヨリ米價ハ漸次下落シテ七年五月頃ニ至ルマテ大抵七八十匁臺ヲ上下シココニ第三期ノ下落時代ヲ生シタルガ、七年又々大風雨アリテ諸國凶作ナリシタメ米價ハ漸騰シテ同年末ニハ百五十五匁七分トナリ、八年六月ノ二百五十匁ヲ最高トシテ十年四月頃マテ

二三ノ月ヲ除クノ外、常ニ百匁以上ヲ維持シタリ、是レ第四期ノ騰貴時代ナリ。ツイデ十年秋以後漸次下落シ諸國無事豊作ナリシタメ天保ノ末年ニ及フマテ六十匁乃至八十匁ヲ上下シ、ココニ第五期ノ低落時代ヲ見ルニ至リシモノ也。今『米相場考』ニ示ス所ニヨリコノ間ノ米價ヲ示サハ左ノ如シ。

天保二年	三年	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年
一月	0.12	0.15	0.18	0.20	0.22	0.25	0.28	0.30	0.32	0.35	0.38	0.40
二月	0.15	0.18	0.20	0.22	0.25	0.28	0.30	0.32	0.35	0.38	0.40	0.42
三月	0.18	0.20	0.22	0.25	0.28	0.30	0.32	0.35	0.38	0.40	0.42	0.45
四月	0.20	0.22	0.25	0.28	0.30	0.32	0.35	0.38	0.40	0.42	0.45	0.48
五月	0.22	0.25	0.28	0.30	0.32	0.35	0.38	0.40	0.42	0.45	0.48	0.50
六月	0.25	0.28	0.30	0.32	0.35	0.38	0.40	0.42	0.45	0.48	0.50	0.52
七月	0.28	0.30	0.32	0.35	0.38	0.40	0.42	0.45	0.48	0.50	0.52	0.55
八月	0.30	0.32	0.35	0.38	0.40	0.42	0.45	0.48	0.50	0.52	0.55	0.58
九月	0.32	0.35	0.38	0.40	0.42	0.45	0.48	0.50	0.52	0.55	0.58	0.60
十月	0.35	0.38	0.40	0.42	0.45	0.48	0.50	0.52	0.55	0.58	0.60	0.62
十一月	0.38	0.40	0.42	0.45	0.48	0.50	0.52	0.55	0.58	0.60	0.62	0.65
十二月	0.40	0.42	0.45	0.48	0.50	0.52	0.55	0.58	0.60	0.62	0.65	0.68

六月及八月大豊作ニ
 風雨ヨリ下
 大凶作
 秋大風
 蓄凶作

漸次
 下落
 無事
 豊年
 同上
 同上
 同上

(注意) 以上ノ米價ハ肥後米一石新文字銀ノ直段ヲ示ス

天保元年十二月肥後米八十八匁五分(大阪市史ニヨル)

三、第一期。 天保元年二年共ニ諸國豐作ナリ、三年ニ至リテハ雨多ク、殊ニ四月五月ヨリ六

月中旬ニ至ルマテ雨天多カリシカ其後早打續キシタメ諸國豐作トナリ、(浮世ノ有様二卷二頁)米價七十

匁前後ニ下リシガ而モ未タ幕府ニ於テ米價引上ノ政策ヲ採ルニ至ラサリシハ勿論、天保二年二月

米商人ニ對シ持圍米ヲ致サス其時々正路ニ賣捌クヘキ旨ヲ令シ(天保集 成九二)同三年酒造半減ヲ令シタ

ルカ如キハ(牧民金 鑑一四)蓋文政ノ末年ニ比スレハ米價ハ甚シキ軒輕ナク、ソレ以前ニ比スレハ尙高直ヲ

保ラルカ如キ感アリシカ爲メナラン歟。

四、第二期。 然ルニ四年六月二十五日ニハ出羽大洪水アリ奥羽飢饉トナリ八月朔日ニハ關東

大風雨アリ、九月ニハ播州一揆アリテ人心頗ル動搖シ、米價次第ニ騰貴ス。十一月松平陸奥守外

十三名ノ大名ヨリ御用番へ届出タル損毛高ハ合計百七十八萬二千四百八十四石餘ニ及ヒ在米拂底

ヲ告ケタリ(堂島舊記二四七 乃至二四九頁)、コノ間ニアリテ米錢等ノ施行ハレシコトナルガ、幕府ガ米價調節策

トシテ施設セシ所ヲ見ルニ、先ツ米ノ買占圍持ヲ禁シ、小賣米モ正當ノ直段ヲ以テ賣捌クヘク、町

々圍米又ハ町人圍米モ勝手次第賣出スヘキコトヲ命シ、官米ヲ廉賣シ、酒造ハ三分ノ二トシ、又

米穀ノ見越買ヲ禁シ、消費ノ節約ヲ命シ喰延策ニヨリテ成ルヘク在米ヲ維持セントシ、糧米焚方

傳、救民安逸傳、飽食教訓、日用食鑑、竈ノ賑ヒ等米穀ヲ節約シテ口腹ヲ充スニ足ルヘキ調理法ヲ説キタル小冊子ハ東西兩地ニ於テ屢刊行セラレタリトイフ。更ニ又江戸廻米ヲ獎勵シ米穀ノ他所積高ニ制限ヲ加フル等ノ方法ヲモ行フニ至リシガ、而モ前述ノ如キ凶作ハ入津期ニ至ルモ尙在米拂底ノ聲ヲ絶タス、米價ハ依然トシテ高直ヲ唱ヘ十二月仕舞相場ハ百十九匁一分ニ昇レリ(大阪市史四ノ一〇四六頁以下、米相場考九〇頁以下)

カクテ天保五年ニ入りテモ米價ハ未タ下落ヲ見ルニ至ラス、乃チ在方ニ轉賣シテ利ヲ貪ルコトヲ禁シ、餘剩米ノ賣出ヲ命シ或ハ搗米屋ニ對シテ正當ノ價格ニテ賣出スヘキコトヲ諭シ、又正米帳合米相場等私利ニ拘ハリ公益ヲ害スル勿ラシコトヲ説キ、更ニ諸藩中廻米高多キモノ九藩ヲ選ヒテ廻米ノ増加ヲ促シ其他米穀ノ囤持ヲ禁シ貯米園米等ヲ賣出サシメ、小賣米相場ノ適正ヲ期シ酒造三分ノ一ヲ命スル等種々盡ス所アリシガ、幸ニモ同年ノ秋納良好ナリシタメ米價次第ニ下降シ十月ニハサキニ命シタル他所積禁止ヲ解キ釀酒高モ三分ノ二ト改メ、七月百十三匁ヲ唱ヘタルモノ八月ニハ八十七匁五分トナリ十月八十四匁、十二月ニハ七十一匁五分ニ下落スルニ至レリ、同年ノ越年米ハ百十二萬三千俵ニ過キサルガ、四年ノ越年米ガ僅カニ七十九萬俵ナリシニ比スレハ著シキ増加ナリト認メサル可ラズ(大阪市史二ノ四六六頁以下、四ノ一〇七五頁以下) 堂島舊記二五八頁以下、米相場考九三頁以下)

五、第三期。 天保六年ニハ「春ヨリ寒氣烈シク家ニヨリテハ四月ニ至レトモ尙炬燵アル程ノ

事ナリシ(中略)桃花漸ク三月ノ半過ニ至リテ盛ナリ、七月ニ閏月アレハ時候ノ後ルルハ左モアル
ヘキ事ナレ共、麥菜種ナド至テ不作ナリ(浮世ノ有様二ノ三四頁)然レトモ土用中天氣申分ナク照リ續キ氣
候至テ宜シク豊年ノ様子ナリシニ堂島ノ奸商類ニ流言ヲナシ、八月ニ至リ北國東國等風水ノ變ア
リ、北國方面七分作ナリシ等(浮世ノ有様二ノ三三六、三三八頁)種々ノ原因ニヨリテ米價ハヤ高マリテ六月ノ七十
一匁ヲ最低トシ、十月ニハ九十五匁トナリ十二月ニハ九十二匁ヲ維持シタリト雖、七年ニ入りテ
ハ漸次下落シテ正月八十六匁五分ヨリ、五月八十三匁トナリ、五年秋以來ヲ概觀スレハコレヲ第
三期ノ下落時代トスルモ不可ナカルヘキ状態ナリシ也。

六、第四期。然ルニ七年六月ニ至リ俄然騰貴シテ百三匁五分トナリ九月以後ニハ百四十匁以
上ニ昇レリ、蓋同年四月ヨリ雨多ク五六月ノ交諸國大洪水アリ、七月又々各地出水アリ八月ニハ
大風雨アリテ大凶作トナリシニヨル(浮世ノ有様三ノ一頁以下)、今年十月ノ調査ニヨルニ山陽南海ノ五歩五厘
作ヲ最長トシテ奥州ノ如キハ二歩八厘作ニテ全國平均四歩二厘四毛作、内古米喰込高一分二厘ヲ
引クトキハ差引三歩四毛作ニ當ルトイフ(堂島舊記二七九頁)。米價ノ暴騰セルモトヨリソノ所ナリトイフヘ
キ也。カクテ七年夏ヨリ十年夏ニ至ルノ間ハ米價高直ノ時代トシテ第四期ニ屬スルモノトス。

幕府ハコノ米價高直ノ際ニ當リテ如何ナル方策ヲ廻ラセシヤトイフニ、先ツ騰貴ノ初期ニアリ
テ行ハレタルモノハ、堂島ノ米問屋ソノ外小賣商ニ對スル取締ニシテ市場ヘ役人出張シテ不正ノ

商ヒヲナシ又過分ニ買米スルモノヲ召捕ヘ又不正辨ヲ用ヒタル米屋二十三人ヲ入牢セシメ、或ハ浮説ヲ禁シ町々又ハ町人圍米ヲ賣拂ハシメ酒造三分ノ一ヲ命シタル等ノ方法コレナリ(浮世ノ有様三ノ五、三〇、三二頁、大阪市史四)。以上ハ主トシテ七八月前後ニ行ハレタル政策ニシテ當時ニ於テハ春來ノ氣候不順ニ加ヘテ、七月ノ關東北國地方ノ大暴風雨アリシ後ノコトナレハ、人々凶作ヲ豫想シ、米價ノ騰貴セルコトモ全クソノ結果ナルコトハ明カ也、然ルニ幕府ニ於テハ八月十七日ノ御觸ニ於テ『當夏以來雨繁ク不順ノ季候ヲ見越シ作方ヲ危踏候人氣ニテ堂島米相場直段追々引上ケ候趣ニ相聞候得共未何レヲ異作ト申見極モ無之候處、不取留浮説而已ニ乘シ景氣抔ト唱、買ハヤラセ候氣配ニ押移候テハ如何之事ニ付米仲買共厚申合誠實ヲ盡、此上平準之相場相立諸民安心イタシ候様懸引可致』云々(大阪市史四ノ一二〇五頁、堂島舊記二七五頁、浮世ノ有様三ノ三〇頁)トイヒ又九月十二日ニハ『當夏以來雨續トハ申乍、諸國相應之作方ニ相聞候處、米直段案外高直ニテ下々難澁之趣、右ハ先達酒造三步一被仰出候ヲ凶作ト而已見込候哉、至深思召有之候處、返而米價引上不作ト而已相心得其筋ニテ賣買イタシ候様相成不束之事ニ候』云々(大阪市史四ノ一二二二頁、堂島舊記二七八頁)トイヒ、凶作ヲ豫想シテ賣買等ヲナスコトヲ戒メタルハ果シテ如何、或ハ曰ク『幕府自ラ凶作ヲ豫想シテ酒造額ヲ減シ而モ他ニ責ムルニ凶作ヲ豫想スルノ不可ナルヲ以テ矛盾ト言フヘキノミ』(大阪市史二ノ四七三頁)ト、然レトモコレ亦一種ノ調節策トシテノ辭令ニ外ナラスシテ殊ニ徳川幕府ノ政治上ノ根本方針ガ依ラシムベシ知ラシムヘカラズトイ

フニ存スルヲ思ハバ必スシモンノ矛盾ヲ責ムルノ要ナキニ非ル乎。ソハ兎モ角カクノ如キ凶作ニアリテハ各地ニ於テ津留ヲナシテ米ヲ他地方へ搬出スルヲ禁シタルモノモアリシカ如シ、例へハ土州ニテハ國中端々へ關所ヲ設ケテ米ヲ他へ出サシメズ國中ノ相場一石六十目ノ賣買ニ定メテソレヨリ直上ケスルコトヲ禁ジ、九州中國筋何國モ多クノ米ヲ貯へ乍ラ何レモ津留ニテ米ヲ他國へ出スコトナカリシトイフ(浮世ノ有様三ノ六、七、二〇頁)。サレハ都會ニオケル米穀ノ拂底ハ依然トシテ存シ、從テ米價モマタ下落スルニ至ラス、幕府ハ引續キ米價ノ調節ニツキ種々ノ手段ヲ廻ラシ、或ハ三郷園米ヲ賣拂ヒ、他所積ヲ禁止シ、廻米ヲ獎勵シ、小賣米値段ヲ差札ニ明記セシメ、或ハ施米施錢等ノ救濟策ヲモ併セ行ヒ白米廉賣者ニ鳥目五百匁ヲ賜フ等種々ノ方法ヲ盡シ、又江戸ニオケル在米拂底ヲ救ハンカタメニ商人ハ勿論、素人ニテモ江戸へ米穀ヲ直賣スルコトヲ許シ(浮世ノ有様三ノ三市史四ノ二二二頁)。又酒造ノ制限ヲ甚シクセリ、(拙著江戸幕府ノ米價調節二〇〇頁)。而シテコレ等ノ禁令ヲ犯シテ買占ヲナシ又ハ他國へ米ヲ賣出セルモノ等ヲ召捕へ入牢セシムル等ノコトアリテソノ都度米價ハ二三匁ノ下落ヲナシタルコトナキニ非ルカ如シト雖(浮世ノ有様三ノ九、一〇頁)。カクノ如キハ大海ノ一滴、未タ全局ヲ動かスニ足ラス。米穀ノ拂底、米價ノ高直ハ尙依然タリキ。

天保八年二月大鹽ノ亂アリ、米價騰貴シ國民困苦セルニ際シテ幕府ノ施設スル所、富商ノ賑恤スル所ソノ當ヲ得サルモノ多キヲ慨シタルコトソノ原因ノ一ナル可シ(浮世ノ有様三ノ二、三、一九九頁)、亂後米價

ハ更ニ一層ノ騰貴ヲ告ケテ三月十日頃ニハ堂島ノ相場二百三十匁トナレリ『昨年ノ冬騰リ次第ニシテ捨置ナハ諸國ヨリシテ米モ積登スヘキコトナルニ、騰レハ押ヘ騰レハ押ヘセラレシ故、國々ノ相場ニ比スレハ大阪ノ相場大ニ賤シキ故米ヲ澤山ニ持テタル國々モ直段引合ズシテ外ニテ米ヲ賣拂ヘル方ノ餘程利ヲ得ルコトナレハ頓ト登セルコトナカリシコトト思ハル、此節米相場上リ次第ナレトモ上ヨリ之ヲ捨置カルル故諸屋敷ニ圍ヒシ米ヲモ賣出スヤウニナリス、三月半過ヨリシテ京都へ積出ス米モ勝手次第ニセヨトテ之ヲ許サレシトイフハ、サ有ルトキハ大盛ガ捨文ノ中ニイヘル事ニ當レルヤウニテ何トヤラン怪シキ様ニ思ハレヌ、トテモカカル程ノ事ナリセバ去年米相場騰リ次第ニシテ爲シ置レナバ諸國ヨリシテ相應ニ當地へ米ヲ持込ミテ此節ハ却テ價安キ米ヲ食ラヘル事ナランニ、是非モナキ次第トイフヘシ』(浮世ノ有様三ノ二七七頁)ト批評セルハ蓋米價調節ノタメニセル人爲策ノソノ當ヲ得サリシコトヲ示スモノニアラスヤ。當時米屋ノ打潰シモ行ハレ四民ノ困苦甚シキモノアリシカ如シ。而シテコノ間ニ處シテ幕府ノ行ヒシ處ハ米買占及他國積ヲ禁シ或ハ白米廉賣者ヲ賞シ、救米ヲ出シ、又小賣直段ヲ引上ク可ラサルコトヲ命シ、搗米屋ニ時價ト賣價トノ差額(間銀)ヲ與ヘテ困窮者一人五合ヲ限り廉價ヲ以テ白米ヲ販賣セシメ、或ハ小賣直段ヲ差札ニ明記セシメ、或ハ安治川口自印山ニ船溜開鑿工事ヲ起シ其土砂ヲ運搬スル男女ニ一日三回粥ヲ與ヘタルカ如キ方法ニシテコレ等ノ方法中ニハ米價調節トイフヨリハ寧ロ救濟策ヲ以テ目ス

ハキモノ少カラス(浮世ノ有様三ノ一六八頁以下、大阪市史四ノ一二五九頁以下、二ノ五一九頁以下)然ルニ其後諸國ヨリ古米追々登リ來リシニ加

ヘテ當年麥作ノ豊收アリ、米穀モ又夏作ナルヘキ見込アリシヨリ六月以降米價次第ニ下落シ、九

月ニハ百三十匁トナリ、十月ニハ米穀他所賣ノ制限ヲ寛ニシ正米帳合商ヒ共賣買方窮屈ナキヨウ

ニスヘキ旨ヲ命シタルガ十二月ニハ更ニ九十四匁五分ニ降り越年米八十五萬二千九百四十五俵ヲ

算スルニ至レリ(大阪市史四ノ一三二三頁以下、榮島舊記二九三頁、浮世ノ有様三ノ三三四頁)

カクノ如ク豊作ノタメ米價ハ低落シタリト雖、七年初メニ比スレハ尙高直ヲ維持セルモノトイ

ハサル可ラス、然ルニ九年一月ノ相場ハ又々昇リテ百匁以上トナリ、同年六七月ノ交、氣候適順

ナラサリシタメ九州中國ハ七八分作ヲ稱ヘ米價ハ下落スルニ至ラス、百三十目前後マテ騰貴スル

ニ至リ、九月ニハ買占賣惜等ヲ禁シ、昨年通り三分一酒造ヲ命シタルガ(大阪市史四ノ一三五七頁以下、浮世ノ有様二ノ二二、二二四頁)

西國中國筋ニハ米ヲ圍持占賣買セシモノモ少カラサリシガ如シ、浮世ノ有様ニ曰ク『近年凶作ニ

テ高價ノ米穀ナリシニゾ九州ヨリ中國筋ハ年々宜シク、米穀モ澤山ナリシニゾ之ヲ占賣リニナシ

テ高價ニ賣拂ヒ格外ノ金儲セシコトト見エテ正月ノ末ヨリシテ九國中國筋ヨリシテ伊勢ヘ參詣ス

ル者仰山ナル群集ニテ一頃ハ寅年(天保元年)ノ御蔭參ノ如シ、澤山ナル米ヲ占圍ヒテ多クノ人ノ咽喉

ヲナシ、之ニ依ツテ餓死セシ者數十萬人ニ及ヘリ、人倫ノ道ニ背キタル所行ニテ神明納受アルヘ

キモノニ非ス惡ムヘキ事ナリ』(四ノ三〇頁)ト。十年一月尙百二十一匁五分トイフ高直ヲ保チシガ其後

當年亦豐作ノ見込立チ九州中國ヨリノ廻米モ多ク諸國ノ圍米モ多ク出テタルヲ以テ米價漸次下落スルニ至レリ。然レトモ七八月頃マテハ尙九十匁前後ヲ示シ、大阪ノ相場ハ兵庫等ノソレニ比シテ尙幾分高直ナリ、コレ蓋米商人ノ買占堂島奸商ノ事ヲ構フルニ由ルトイフ(浮世ノ有様四ノ三一〇、三
四七―三
四九頁)

七、第五期。十年秋以來豐作ノ結果トシテ米價ハ漸次下リテ九十匁臺ヨリ七十匁臺トナリ六十匁臺ニ及ヒ、十二月ノ相場ハ六十六匁七分、越年米百四十萬千六百八十匁(浮世ノ有様四ノ三五三頁)ヲ算シ、十一年以後十四年ニ至ルマテ諸國無事豐作ニシテ米價ハ概六七十匁臺ヲ前後シ米價下直ノ時代ヲ現出シタリ、コレヲ第五期トス。勿論コノ期間内ニ於テモ米價ハ八十匁以上ニ及ヒシコトアリテ時々ノ高下ハコレナキニアラス。即チ十一年ニハ土用前後ニ氣候稍不順ナル處アリテ一時九十四五匁ニ上リシコトモアリシカ如シト雖土用半ヨリ天候恢復シタルト、諸國ヨリ古米ノ登ルモノ多カリシタメ、米價ハ六十匁臺ニ下リ、而モ他ノ諸色ハ概ネ高値ナリシタメ諸侯ノ中ニハ米價ノ低キヲ苦痛トシ町人ヨリ融通ヲ受ケントテ種々ノ手段ヲ講セシモノアリ(浮世ノ有様四ノ三五五頁以下)。翌十二年七月末ニモ堂島奸商ノ流言アリテ米價稍々騰貴シタルガ(同上、三
七四頁)同年ニハ造酒ニツキ天保四年以前造來高ノ三分ノ二酒造スヘキコトヲ命シタルハ蓋諸國豐熟ノ結果ナルヘク、翌十三年ニ於テモ氣候不順ニテ米價ハ八十匁以上ニ及ヒシコトアリ(同上、五ノ
一三二頁)七月二十日ノ強風雨ハ忽チ奸商

ノ乘スル所トナリ米價ヲ引上ケシガ風モ靜マリテ後ハ自ラ下落シ土用過キヨリ暑氣甚シク苗ノ生育ニ良好ナリシニカカワラス土用中數日吹キタル東風至テ惡シト言ヒテ奸商ノ利ヲ貪ラントセシカ如キコトハ常ニ行ハレタル所ノ手段ナルヘシ(同上、五ノ一六四頁)。當時ノ米價ハ十四年ニ至ルマテ凡ソ七八十匁ノ間ヲ示シ甚シキ下直ニアラサルト共ニ又甚シク騰貴シタルコトモナク、米價調節ノ方法トシテ採ラレシ政策ノ如キモ亦特筆スヘキモノアルヲ見ズ、タダ當時諸色直段ハ一般ニ高直ナリシタメ之ヲ引下ケントシテカノ水野忠邦ハ株仲間ノ停止ヲ命シ、自今問屋仲間組合等ノ名稱ヲ使用スルヲ禁シ、株札ヲ有スル者ガ其營業ヲ獨占シ其特權ヲ濫用スルヲ止メ各人ノ自由競争ニ放任シテ以テ一般物價ノ下落ヲ生センコトヲ計リシト雖、而モ商業組織ノ混亂ハ幕府ノ期セルカ如キ物價ノ低落ヲ見ルヲ得ナリシ也。又十三年六月ニハ諸色直段ニ對シ強制的ニ二割以上ヲ引下ケシメタルガ(大阪市史四ノ一五四三頁)コレカタメ大阪ノ物價ハ諸國ノ直段ニ比シテ下直トナリ却テ諸國ヨリ諸色ヲ廻送セサルニ至リ在品拂底シテ自ラ高直トナリシコソ是非ナキ次第ナレ、天保八年ニハ米價ヲ抑制セシタメ諸國ヨリノ廻米ナク次第ニ高價トナリシガ今又前車ノ轍ヲ踏ミテ在品ノ拂底ヲ見ントス、豈ヨク價格ノ下落ヲ生セシムルヲ得ンヤ(浮世ノ有様五ノ一三四頁)。要スルニ天保ノ物價ニ關スル政革ハ從テ米價ニモ影響スヘキモノナレトモ、ソノ效果ノ顯著ナラサリシト、ソガ一般物價ニ關スルモノニシテ必スシモ米價ノミニ關スルモノニ非ルヨリ觀テ之ヲ以テ米價調節策トシテ未ダ大ニ

論スルヲ得サルモノ也。

八、括言。

天保度ノ米價調節策ハ以上述フル所ニヨリテ略ソノ要ヲ盡シタリト信ズ。今之ヲ概觀スルニ天保度ニ於テハ米價ノ變動ハ頗ル甚シキモノアリシト雖、之レカ調節策トシテ行ハレタルハ主トシテ米價引下策ノミニシテ享保文化度ニオケルカ如キ引上策ノ行ハレタルコト殆ンドナカリシ也。而シテソノ引下策トシテ行ハレタル方法ニツイテモ從來ヨリ行ハレタル所ノモノト異ルナク、新規ノ方法ヲ見ルコトナカリシ也、從テ余ガサキニ掲ケタル江戸幕府ノ行ヒシ米價調節方法一覽表(拙著 六二頁)ニ對シテハ未タ之ヲ補修スヘキモノアルヲ見サル次第ナリ。

米價ノ人爲的調節ノ效果ニツイテハ余ハサキニ『米價調節ノ爲メニ行ヘル人爲的手段ハ必スシモソノ效果ナキニ非スト雖、未タ之ニ多大ノ望ヲ囑スルヲ得サルカ如シ。然ルニ當時ニアリテハ米穀ノ生産分配等ノ状態カ今日ト異リシカ爲メ、自然ノ出來事殊ニ作柄ノ豊凶ハ米價ニ對シテ特ニ甚大ナル影響ヲ及ホシ、米價ノ暴騰暴落ヲ惹起シ、忽チニシテ從來ノ人爲的手段ノ效果ヲ粉碎シ、更ニ他ノ人爲的手段ヲ講セサルヲ得サルニ至ラシメシコト少カラサリキ』(拙著三 一七頁)ト論シタルガコノ結論ハ又同時ニ本稿ニオケル結論トモナスコトヲ得ヘキモノ也、モトヨリ人爲的政策ヲ行ヒシタメ時々米價ニ變動ヲ與ヘタルコトナキニ非リシト雖、而モソノ程度ハ極メテ微々タルモノナルニ反シ、作柄ノ豊凶ハ甚シク米價ヲ上下セシメタルコト既ニ上述セル所ニヨリテ明カナ

ル可シ。而シテ大阪ニ於テハ在米ノ拂底ニ苦ミ種々ノ方策ヲ講シ米價ノ引下ヲ計レルニ反シ、西國方面ニテハ比較的の多クノ米穀ヲ貯へ、コレヲ囤持チテ他地方ニ出サザリシカ如キコト往々行ハレシコト、亦上述セル所ノ如シ、是レ徒ラニ一地方ニオケル米價ノ騰貴ヲ見テ之ヲ抑制セル結果、他地方ヨリソノ在米ヲ廻送スルコトガ打算上必スシモ有利ナラサルニ至リシカ爲ニシテ、モシ自然ノ大勢ニ放任シテ米價ヲ抑制スルコトナクンバ、自ラ他地方ヨリノ廻米ノタメ米價ハ適當ナル程度マテ自然的ニ調節セラルヘカリシ也。然ルニ徒ラニ人爲策ヲ行セシカ爲メ却テ米穀ノ供給ヲ減シ、アル地方ニ於ケル米價ノ騰貴ヲシテ一層甚シカラシムルニ至リシモノニシテ、コト茲ニ至リテハ却テ人爲策ノ弊ヲ説カサル可ラス。蓋交通ノ便全カラサリシ當時ニ於テ有司カ遠隔地ニオケル米穀ニ關スル狀況ヲ迅速ニ審ニスルコトヲ得サリシカ爲メ、ソノ施設スル所、當ヲ失スルニ至リシニヨルモノトス。サレハ余ガサキニ『是レ或ハ米價ヲ自然ノ大勢ニ放任シ甚シキ干涉ヲ加ヘサルコトカ却テ米價ノ變動ヲ頻繁ナラシメス、人爲的手段ヨリ生スル反動ヲ避ケ得ヘキモノナルコトヲ示セルモノニ非ルナキ乎』(同上)トイヘルコトモ尙之ヲ維持スルノ適當ナルヲ信スル也。

附言。一、『浮世ノ有様』卷二、一七頁ニハ天保八酉年大小ノ文字アリ從テ編者ハ目次及本文共、

同頁ヨリ二四頁マテヲ天保八年ノ記事ノ如ク取扱ヒオレルモ、記事ノ内容ヨリ見ルトキハ

天保七年ノモノナルカ如ク考ヘラレ、又ソノ越年米漸五十萬匁ニ足ラストアルコトモ、堂島舊記二八四、二九三頁ニヨレハ天保七年ノ越年米ナルコト明カナリ。故ニ右ハ天保七年ノ記事トスルヲ正當ナリト考フルガ果シテ如何。

二、尙『浮世ノ有様』卷二、二九三頁ニハ天保二年毛利領中ニオケル百姓一揆ノ原因ニ關スル記事アリ、又三三七頁ニハ筑前侯ノ勝手元不如意ノ記事アリ。前者ハ同藩ニ於テ財政困難ノタメ種々ノ新法ヲ蒙出シ領中處々ニ役所ヲ立テ國中ノ産物ヲ悉ク價易ク買上ケテ之ヲ大阪ニ送リテ賣拂ヒ從來農商民ノ占メシ利益ヲ墮斷シ、且ツ諸運上ヲ取立テ、其外、富國ノ類ヲ許セシコト等ヲ記シ、後者ハ領内ノ醫師某ヲ士ニ取立テテ勝手方ヲ命シ萬事ソノ計ラヒニテ領中ニ課役ヲ申付ケ大阪ノ鴻池加島屋等ノ債務ヲ踏倒シ、米穀ノ賣拂等ニツキ却テ大ナル支吾ヲ生シタルコトヲ説ケルモノニシテ、要スルニ此等ノ記事ニヨリ當時諸侯ノ窮乏ト米穀ソノ他ノ國産ニ對スル大阪市場ノ地位、并ニ諸侯ト大阪富豪トノ關係等ヲ察スルニ足ルヘキモノアリ。コノコトハ既ニ余ガサキニ略論シオキタル所(拙著二〇頁以下)ト異ルナキヲ以テ茲ニハ之ヲ再ビ詳説セズ。